

最重要課題は「品質向上」。 TPSを学び、実践する。



目指すのは「業務用洗濯機業界のトヨタ」 社長・山本尚平の想い



当社は2021年度よりTPS（トヨタ生産システム）を採用し、指導を受け始めました。TPSを始めた動機は、グローバル化が進展するなかで、当社も海外市場への進出、展開が大きな柱となり、工場運営の面でも「グローバル企業」に相応しい体制を構築しないとイケないと考えたからです。

トヨタ自動車の「製造力」の強さは世界のあらゆるメーカーの「羨望的」で当社もTPSを学習することにより「工場運営の頂上の風景」を見たいという思いもありました。

いざTPSを実践し始めると、やはり「頂上の風景」は素晴らしいと感動しています。

会社にインスピレーションをもたらし、TPSの課題はチャレンジングなことですが、従業員のモチベーションは高まった

とも感じています。

TPSの最重要課題は「品質向上」です。現在、当社も「品質向上」に重心を置きながら「生産性向上」「コスト削減」にも取り組んでいるところです。

またTPS活動を通じてトヨタ自動車の「ものの考え方」をよく知ることができるようになりました。

まず第一に「社会貢献」のことを考え、物事を深く洞察し「真理を追求」するということ。この点に私は強く共感を覚えました。

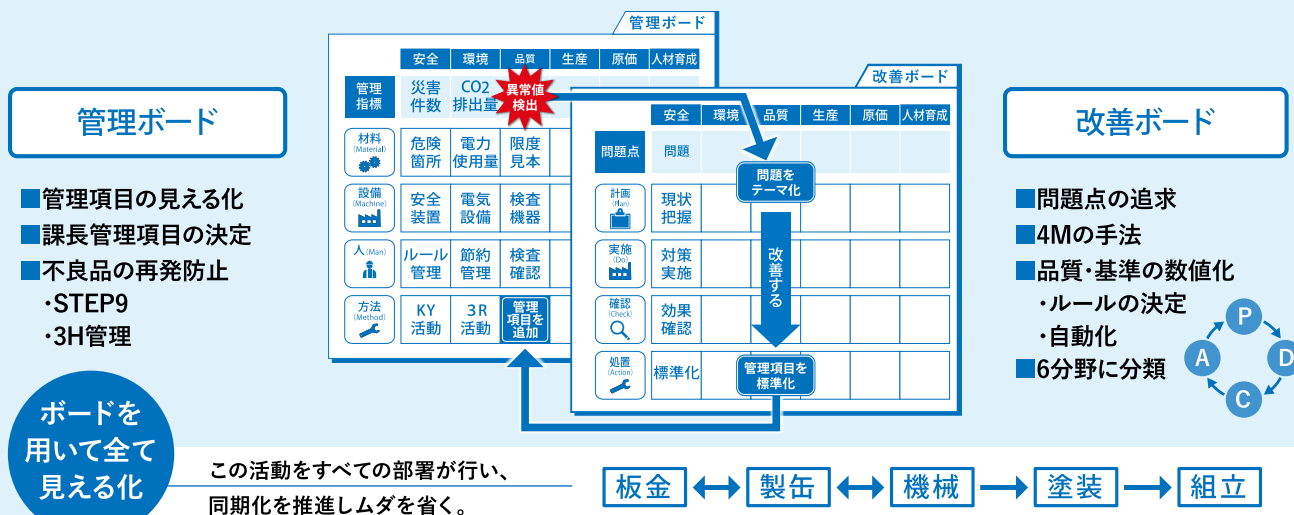
これからもトヨタ自動車の良いところを吸収し、将来は「業務用洗濯機業界のトヨタ」と呼ばれることを目指して全社一丸となって精進し、皆様のご期待に応えていきたいと思っております。

株式会社 山本製作所
代表取締役

山本尚平

最大の目的は「品質向上」すべてはお客様のために。 ——山本製作所が取り組むToyota Production System.

● コミュニケーションボード活用 管理ボードと改善ボードは、常に管理と改善のPDCAが回り、レベルアップする仕組みになっている。



「品質」「人財育成」「実践トレーニング」「同期化・自動化」が現状のテーマ。

品質向上

問題点の真因を追求。全社各課で対応。

問題点の真の原因がどこにあるのか。それを4M(人・man、方法・method、材料・material、設備・machine)手法で分析し、徹底的に追求。安全、環境、品質、生産、原価、人財育成の6分野に分類。各課で項目ごとに管理点・管理項目を設定し改善活動に取り組んでいます。各課に管理ボード、改善ボードを設置。品質はもちろん、作業姿勢に至るまで全ての基準を数値(見える)化し、管理指標の徹底、改善点の解決を行っています。

不良品の再発防止には、STEP9(対策手段)と3H(変化・久しぶり・初めて)の手法を駆使して徹底した再発防止策を策定し、不良品の流出防止と発生源の解消を図ります。各作業のルール作りと詳細を明記した動画手順表を作成。「ルールのない作業ミス」の責任は、作業者ではなく会社側の考え方が基本です。

人財育成

あらゆる活動を人財育成につなげる。

各科を4～5名単位にグループ化し、各職制が設定した管理

項目を見える化、各チームでTPS手法により問題点の解決を図っています。毎日10分程度のミーティングを設定。コミュニケーションボードを活用することによってTPS活動の幅広い浸透と各個人のレベルアップを目指しています。人財育成は、対象者を新人、3年、6年、9年、管理職、技術職に仕分けて人財育成マップを作成して効果を高めています。

同期化・自動化

必要なものを必要な量、必要な時に必要な順に供給。

そうすることによって各課間のコミュニケーションも活発化。綿密な打ち合わせに基づき品質向上、リードタイム縮小、在庫削減なども達成されます。また専用機、治具、専用台なども自社で製作、各工程での自動化も推進しています。

実践トレーニング

座学でなく実践こそTPS活動の根幹。

製造現場での実戦トレーニングを通じて学ぶことが何よりも重要です。トレーナーと共に当社の問題点を解決。当社に則した組織の構築を行っています。

日常業務の中から改善点を抽出し、大きな改善点につなげ品質を高めていく。改善からムダを省きスタッフの負担を低減することにより、結果としての生産向上がある。それを実現するために山本製作所では、上司がスタッフに寄り添いTPS活動を推進しています。

